

## 2. 県立高校学力向上基盤形成事業

本年度「県立高校学力向上基盤形成事業」では、9の研究指定校において26名の研究推進委員によりジグソー法を用いた授業の実践が行われた。本章ではそれらのうち検証授業として行われた19の実践を紹介する。各教科内の掲載順は、実施の順である。



写真： 教え、教えられる関わりを通してひとりひとりの賢さを育てる（埼玉県立吉川高校の授業風景）



## 【国語】わたしが一番きれいだったとき (pp. 150-151)

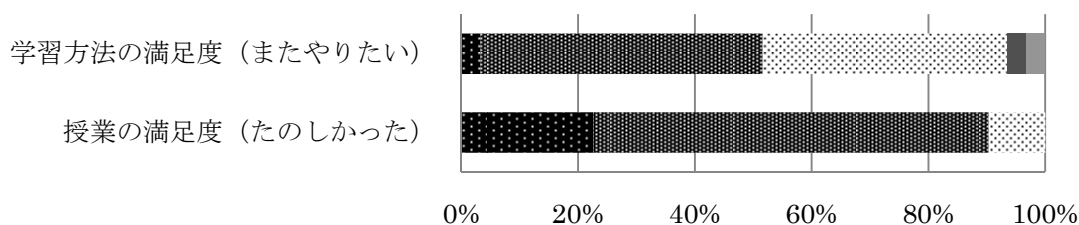
### <教材の概要>

『わたしが一番きれいだったとき』という現代詩の魅力を、「詩の時代背景」、「表現の特徴」、「作者の生き方」という3つの観点から考え、作者が言いたかったことを、グループでキャッチコピーにまとめる。

### <実践校・学年>

埼玉県立春日部女子高校1年生

### <生徒の満足度>



	授業の満足度 (たのしかった)	学習方法の満足度 (またやりたい)
■ 5	7	1
▨ 4	21	15
⊘ 3	3	13
■ 2	0	1
■ 1	0	1

### <授業を終えて課題作品に対する生徒の考え>

- ・始めは戦争のせいで大変だったんだろうなとしか思わなかったけど、みんなで意見を交わしていく内に、「自分の意見をしっかり持って、周りに流されることなく生きてください」と言っているような気がした
- ・作者が戦後になってもなぜ「ふしあわせで、とんちんかんでさみしい」のかよくわからなかった。戦争がおわって自由になり、やりたいことができるようになったんじゃないのかなあ

### <所感>

作品に対する生徒の読みは、詩の語句自体をとらえた直観的なものから、詩に書かれていない作者のメッセージを感じとるまでに深まった。また、学習課題を超えて新たな疑問を見出している生徒も多く、主体的に学習に取り組んだ様子が見られる。

## 【国語】三大和歌集の特徴を比べてみよう (pp. 152-153)

### <教材の概要>

『万葉集』、『古今和歌集』、『新古今和歌集』という三大和歌集の特徴は何か」という課題に、各和歌集の特徴をよく表した恋の歌を鑑賞し、結果を比較し合うことで答えを出す。

### <実践校・学年>

埼玉県立浦和高校 1 年生

### <生徒の満足度>

※調査せず

### <授業の前後での課題に対する生徒の考えの変化>

前) 「万葉集」…日本最古の和歌集 約四千五百首を集めている

「古今和歌集」…約千百首を収める

「新古今和歌集」…約千四百首を収める

後) 「万葉集」…素直にわかりやすく思いを伝えている。和歌が多く収められている。

「古今和歌集」…少し婉曲的になり、芸術性を持つようになった。

「新古今和歌集」…比喩や句法を多く用い、古今和歌集の句よりももっと芸術性が強い和歌が収められている。

前) 「万葉集」…日本最古の和歌

「古今和歌集」…日本最古のちよく撰和歌集、紀貫之

「新古今和歌集」…

後) だんだんと、言葉が発達しており「万葉集」では、直接的な表現が多いが、「古今和歌集」「新古今和歌集」と年月がたつていくと、文化としての和歌やさまざまな表現法、音や色などがこめられている

### <所感>

生徒の活動は非常に活発であった。課題に対する生徒の理解は、授業前には収録歌数や「日本最古」といった各歌集についての<情報>が中心だが、授業後には収録されている和歌の特徴と結びついたものへと変化している。また、<文化としての和歌>のように、教材に含まれていない視点も表れており、生徒たちが課題についてそれぞれイメージをふくらませている様子が見える。

## 【国語】漢詩の鑑賞法 (pp. 154-155)

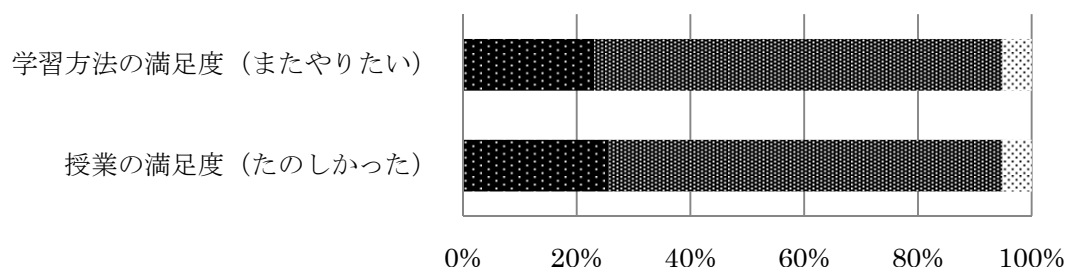
### <教材の概要>

「作品から自分なりのイメージを膨らませる」、「語り手の視点に立つ」、「登場人物の視点  
に立つ」という鑑賞を深めるための3つのポイントについての資料から学んだことを出し  
合って、漢詩の鑑賞を深める。

### <実践校・学年>

埼玉県立越ヶ谷高校 1年生

### <生徒の満足度>



	授業の満足度 (たのしかった)	学習方法の満足度 (またやりたい)
■ 4	10	9
▨ 3	27	28
▩ 2	2	2
■ 1	0	0

### <生徒のアンケートより：わかったこと>

- ・登場人物・語り手になったつもりで感情移入し、詩の情景を想像して書いていないことを推測してみる
- ・全体を読んだうえで、いろいろな視点になって考え、物事を自分の経験を結びつけ楽しく短歌を読む
- ・違う視点に立ったときの心情や、書かれている情景から書かれていない情景を想像する。

### <所感>

鑑賞法についての文章を読み、考えを出し合ったうえで実際の漢詩の鑑賞を行うことにより、観賞法が自分なりの言葉でまとめなおされて記憶されることになったようである。

## 【国語】歌物語を作ってみよう (pp. 156-157)

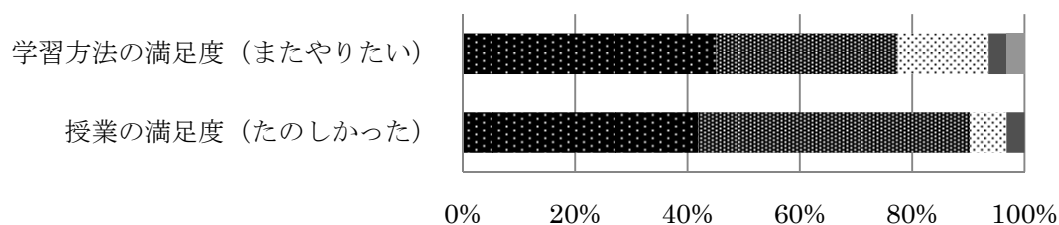
### <教材の概要>

ある短歌の歌物語について、「歌物語のテーマを考える」、「歌物語の種を見つける」、「物語の成立条件=物語の骨組みを作る」という3つを組み合わせ、作成する。

### <実践校・学年>

埼玉県立吉川高校1年生

### <生徒の満足度>



	授業の満足度 (たのしかった)	学習方法の満足度 (またやりたい)
■ 5	13	14
■ 4	15	10
※ 3	2	5
■ 2	1	1
■ 1	0	1

### <生徒のアンケートより>

- ・物語を作って、1つの物語だけでなく考え方を変えたりすればたくさんの物語が作れることが分かりました。
- ・1人1人の考えが全然ちがうんだと知ったし、1つの短歌で色々なことを想像したり物語をつくったりしてとてもたのしかったです。
- ・今度は逆に物語から短歌を作りたい!!

### <所感>

アンケート結果より、生徒たちは概ね、互いに意見を出して聴き合うことで、歌物語を作る楽しさや、他者との視点の違いを実感できたと考えられる。一方で、学習方法の満足度に2以下を選択している生徒が計2名いた。物語作りという、自分の感性を表現することに抵抗がある生徒への対応が、今後の課題として考えられる。

## 【国語】ジェンダーとは何か (pp. 158-159)

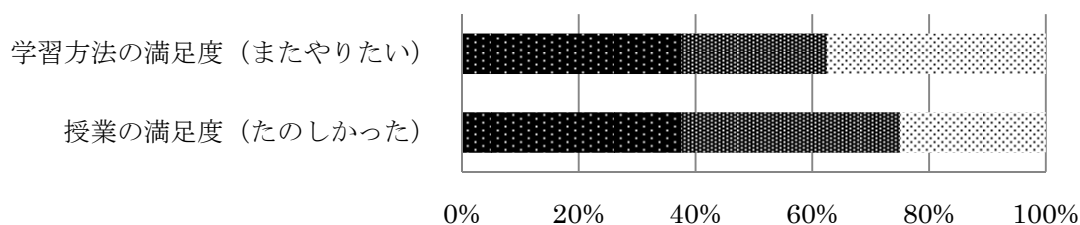
### <教材の概要>

「ジェンダーとは何か」という課題に、週刊誌の記事や新聞広告の見出しなどの身近な3つの例を素材に話し合うことでアプローチし、さらにジェンダーに関する理想と現実を踏まえて「自分はどうか」を考え、意見文にまとめる。

### <実践校・学年>

埼玉県立戸田翔陽高校2年生

### <生徒の満足度>



	授業の満足度 (たのしかった)	学習方法の満足度 (またやりたい)
■ 5	3	3
▨ 4	3	2
⊘ 3	2	3
■ 2	0	0
■ 1	0	0

### <生徒のアンケートより：授業を終えて>

・社会の風調は簡単には変わらないから、自分1人の意識だけでも「ジェンダーを無くす」方向に変える。女性も男らしくしたい時もある。個人らしさを尊重して、認めてもらえる社会を作ってほしい。認めてほしいと思うばかりでなく、自分の意思を積極的に主張していくこと。

・自分は自分らしくあるようにする。女性は女らしく、男性は男らしくではなく、好きなことをした方が・・・・・・・・・・良い。

### <所感>

参加した生徒たちは「ジェンダー」によって社会や個人の生き方が無自覚に規定されていることの問題を自分なりの言葉でとらえ、それをふまえて自分の生き方について考えることができたようである。欠席者が多かった点からは、グループ活動そのものに抵抗感を持つ生徒をどのように巻き込んでいくかという課題も見えてきた。

## 【国語】『高瀬舟』－喜助の行為をどう意味づけるか－ (pp.160-163)

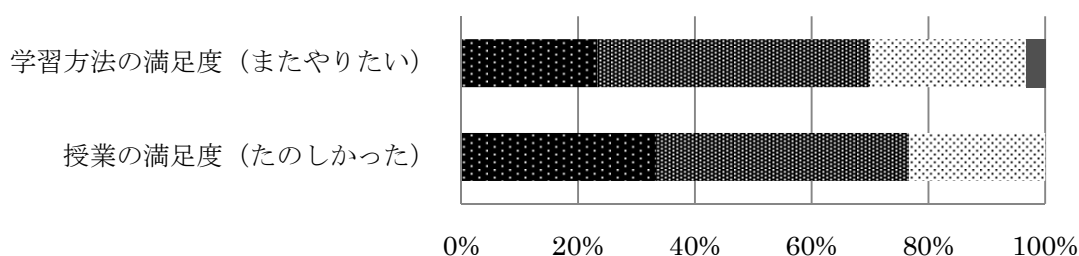
### <教材の概要>

小説『高瀬舟』の読みを発展させる活動として、「「お奉行様」として主人公喜助に対する判決文を考える」という課題に、「貧困と自殺」、「安楽死の是非」、「親族殺人/自殺幇助」という3つの資料から考えたことを素材として取り組む。

### <実践校・学年>

埼玉県立富士見高校1年生

### <生徒の満足度>



	授業の満足度 (たのしかった)	学習方法の満足度 (またやりたい)
■ 5	10	7
▨ 4	13	14
▩ 3	7	8
■ 2	0	1
■ 1	0	0

### <生徒のアンケートより：主人公喜助に対する判決>

・弟を楽にしてやろうとしたからだろう。しかし、心のどこかで弟が死ねばくらしが楽になるという考えもあったのだろうでなければいくら弟にカミソリを抜いてくれと頼まれて迷うことなく医者をよびにいかただろう。

・10年間島にいないてはならない。それは事件に関しては殺人であることに変わりはないが、死の直前に苦しい思いをしている弟を目の前にして親族である弟を自分の手で死に至らせるというのは、非常に辛いものであり人道的なものと思えるため。

### <所感>

エキスパート活動の資料の内容が比較的難しく、分量も多かったため、はじめはあまり活発に話し合いが起らなかった。しかしジグソー活動が始まると説明と質問の交換を通して徐々に話し合いが活発化し、全グループが喜助の行いを自分なりに理解したうえで判決を導き出すことができた。

## 【国語】漢詩の創作 (pp. 164-166)

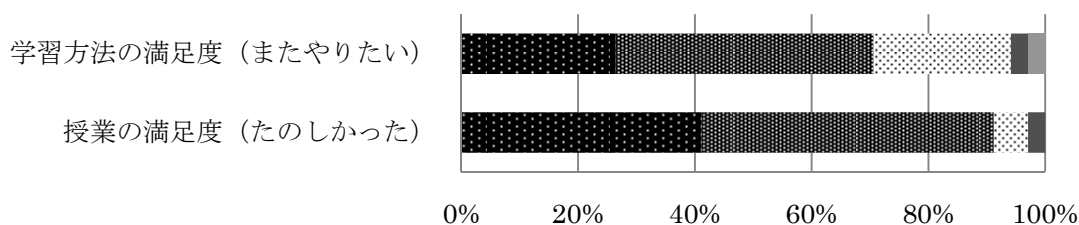
### <教材の概要>

漢詩の構造と作成法について「詩語表の見方」、「漢詩作成上の注意点」、「漢詩作成の手順」という 3 つの観点から学習したことを持ち寄って、グループ内、グループ間で推敲しながら「晩秋即事」を題とする漢詩を創作する。

### <実践校・学年>

埼玉県立秩父高校 2 年生

### <生徒の満足度>



	授業の満足度 (たのしかった)	学習方法の満足度 (またやりたい)
■ 5	14	9
▨ 4	17	15
⊘ 3	2	8
■ 2	1	1
■ 1	0	1

### <生徒のアンケートより：わかったこと>

- ・グループ内でも詩の解釈のしかたが何通りかできてきて、自分にはない解釈を取り入れることで詩の完成度が増すことがわかった。
- ・漢詩の結句の 1 番最後からつくるやり方が面白いと思った。漢詩の面白さ。季節や時間帯を統一したり、1 つの詩で同意義語を使わないこと。
- ・漢詩はなぜか切ないものが多かった。マニュアルに従えば意外と簡単だった。もっと多くの言葉を使って詩を作ってみたくなった。

### <所感>

この授業では、詩語表から漢字を選んで漢詩を創作するジグソー活動において、特に活発に話し合いが起き、全グループが個性的な『晩秋即事』を完成させた。「特定の音の漢字群から漢字を選んで、各グループなりの詩句をつくる」というような「規則のある表現活動」は、活発な話し合いを引き起こすのに適した課題と考えられる。



## 【数学】解と係数の関係—式とグラフの関連— (pp. 167-168)

### ＜教材の概要＞

二次方程式の解と係数の関係を式とグラフの関連に基づいて理解するという課題に、「判別式とグラフの  $y$  座標の関係」、「解の和  $\alpha + \beta$  とグラフの軸との関係」、「解の積  $\alpha \beta$  とグラフの切片との関係」という 3 つの資料を組み合わせで取り組みます。

### ＜実践校・学年＞

埼玉県立越ヶ谷高校 1 年生

### ＜生徒の満足度＞

(調査せず)

### ＜生徒のアンケートより：わかったこと＞

- ・二次方程式で解いたもの＝グラフで考えて解いたもの、となること
- ・数Ⅱで習ったことと数Ⅰで習ったことと条件は、すべてにおいて詳しくみていくと関連していることがわかった。
- ・二次方程式と二次関数では必要十分条件がたくさんある。
- ・最初は数Ⅱと数Ⅰの内容が関連していることが結びつかなかったけど、今日の活動をしたらすごく理解できた。

### ＜生徒のアンケートより：感想＞

- ・話し合う機会が多いというよりも話し合いのみの授業で理解が深まってよかったが、時間が短くて残念だった。
- ・他の意見はわかりやすく、目をつけてない部分に気づくことができた。
- ・いつもと違う話し合いのしかたでとてもたのしかったです。
- ・最終的にメッチャスッキリしました。気持ちよかったです。

### ＜所感＞

生徒たちは、式とグラフという二通りの表現を比較検討することを通して解と係数の関係についての理解を広げ、深めたようである。「二次方程式」と「二次関数」の関連に驚いている感想からは、生徒たちがふだん数学を学ぶ際に単元と単元の関連をあまり意識していないことがわかる。1 つの主題を異なる角度から見て説明してみるという本実践のような授業はそのような問題に対して有効かもしれない。「話し合いを中心とした授業であること」また特に「ジグソー法」独特の形式に肯定的な評価をする感想がしばしば見られたのも興味深い。

## 【数学】 $x = 1$ と $x \rightarrow 1$ はどう違う－「極限」とは何か－

(pp. 169–170)

### <教材の概要>

$x = 1$  と  $x \rightarrow 1$  の違いを体験的に理解するという課題に対して、「極限値を概数で求める」2つのグループと「2次式の因数分解の復習」をするグループが、わかったことを組み合わせ合わせてアプローチする。

### <実践校・学年>

埼玉県立吉川高校 3 年生

### <生徒の満足度およびアンケート>

(調査せず)

### <所感>

#### ・ 道具を媒介とする協調

「極限値を概数で求める」2つのグループは、計算に電卓を使用した。それにより各自の計算の過程と結果が可視化されるため、「この部分は小数点何位？」といった質問が引き起こされやすいという効果があったようである。また、計算結果が隣の生徒とずれた際にも「電卓で最後までやってないからじゃないの？」など、ミスを個人に帰さずに指摘することが可能となり、活動を途中で投げ出さずに最後まで取り組むことができた。

活動のペースがグループ内でずれる場合もあったが、そのずれはむしろ遅れている生徒と進んでいる生徒の間で聞きあいをうながすことにつながったようである。

#### ・ 教師の支援をきっかけとするコミュニケーション

ジグソー活動の際、話し合いがなかなか起こらないグループには教師がしばしば支援を行った。具体的には、グループの1人が教師に対して質問を行うと、教師が全員に投げるかたちでその答えを返し、その答えが生徒にひきとられると、教師が他グループに移動し、生徒間でのコミュニケーションを促進するかたちをとった。

#### ・ 基礎的な学力の形成に課題がある学校における数学の理解

ジグソー活動の後、「ぴったりじゃない。だけど、これが数学なんだよ」という言葉があるグループから出された。これは、「 $x=1$ を代入すると  $0/0$  となるはずの式が、電卓で  $0.9$ 、 $0.99$ 、 $0.999\cdots$ 」と近づけていくと「3」に近づくことの不思議さに着目して「 $x=1$  と  $x \rightarrow 1$ 」の違いに気づき、それを自分なりに言葉にしようとしての発言であった。授業後は、「今日はたのしかった」、「今日はがんばった」という声が教室のあちこちで聞かれた。数学の面白さや不思議さを自分なりに言葉できる経験は、大学受験などに直接数学を使わないような生徒を対象にした数学の授業においては、特に重要なことなのではないだろうか。

## 【数学】理想の答案 (pp. 171-172)

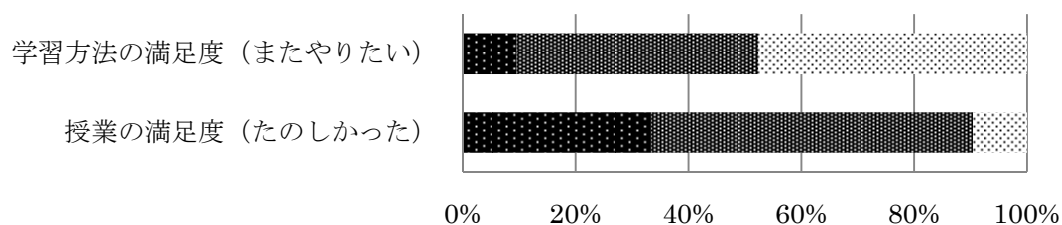
### <教材の概要>

「理想の答案」の条件について、「答案を採点・加筆修正する」活動と、「答案を要約する」活動、「芸術展の採点基準を作る」活動の3つを組み合わせ、作成する。

### <実践校・学年>

埼玉県立浦和高校 3年生

### <生徒の満足度>



	授業の満足度 (たのしかった)	学習方法の満足度 (またやりたい)
■ 5	7	2
● 4	12	9
⊘ 3	2	10
■ 2	0	0
■ 1	0	0

### <生徒のアンケートより>

- ・ 答案の論理性だけでなく、芸術性も大事であること。
- ・ 条件を正確に書くことが大切であること。
- ・ 自分で思いつく解法の他にも、十人十色の解法が生まれていたのも、おもしろかったし、ためになった。

### <所感>

理想の答案の書き方について、生徒たちはエキスパート資料から観点を得ると共に、他者の答案に対する考え方を媒介にして、自分の答案の書き方について振り返ることができたようである。「今回は理想の解答についてだったが、解法についても話してみてもいいかも。」という記述から、生徒の中に新しい興味が湧いていることも確認された。時間が欲しい旨の記述もあり、授業時間の組み方に今後検討が必要である。

## 【数学】逆向きにたどる一解法のコツをつかもうー (pp. 173-175)

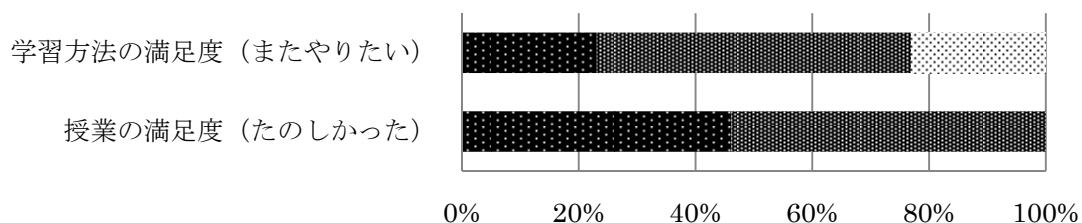
### <教材の概要>

「問題を解くために役立つ考え方」について、「少なくとも1つが1であることの証明」、「放物線と2本の接線で囲まれた面積」、「数の大小」の3つを組み合わせ、共通点を抽出する。そこから「逆向きにたどる」ことの有効性に気づく。

### <実践校・学年>

埼玉県立浦和高校2年生

### <生徒の満足度>



	授業の満足度 (たのしかった)	学習方法の満足度 (またやりたい)
■ 5	6	3
■ 4	7	7
⊙ 3	0	3
■ 2	0	0
■ 1	0	0

### <生徒のアンケートより>

- ・逆から考えることが有効になる場合がある。
- ・数学にはいろいろな解き方があって、先に結論を予想して導くやり方もなかなか使えるということ。

### <所感>

生徒の授業満足度は高く、また、数学の問題を解く上で、「逆向きにたどる」ことの有効性には概ね気づいたようである。この意味で、授業のねらいは達成されていた。「他の問題でもためしてみたい。」という記述から、授業で理解したことを次の学習につなげる萌芽が見られる。ただし、数名の生徒が、エキスパートの各問題について、疑問が残ったようであり、エキスパート資料について、今後さらに検討の余地はあるだろう。

## 【英語】「who/whom/which/whose/that」ってどんな言葉？

(pp. 176-179)

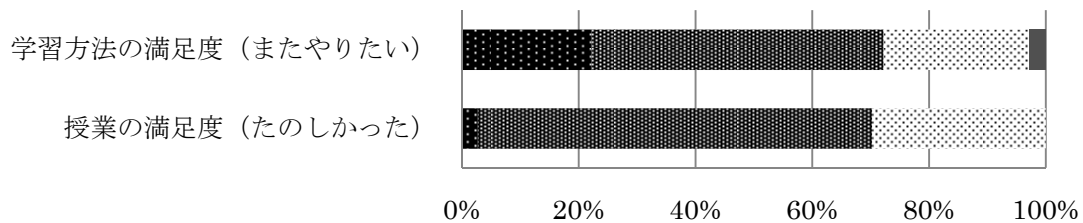
### ＜教材の概要＞

“who/whom/which/whose/that”の使い分けについて、「who/whom”の使い方を探る」、「which”の使い方を探る」、「whose”の使い方を探る」の3つを組み合わせ、説明する。

### ＜実践校・学年＞

埼玉県立越ヶ谷高校 1 年生

### ＜生徒の満足度＞



	授業の満足度 (たのしかった)	学習方法の満足度 (またやりたい)
■ 5	1	8
▨ 4	25	18
⊘ 3	11	9
■ 2	0	1
■ 1	0	0

### ＜生徒のアンケートより＞

- ・ 関係代名詞の使い分けがわかりました。
- ・ 関係詞を使うと、対象とするものが限定できること。
- ・ 話し合うことで授業の内容が頭に入りやすくなること。

### ＜所感＞

アンケート結果から、生徒は話し合いを楽しみながら、各関係代名詞の使い分けについて理解を深めることができたようである。関係代名詞の種類ごとに分けるエキスパート教材の組み方が、関係代名詞の使い分けについての理解を促していたと考えられる。ただし、関係代名詞 **that** の使い方について疑問を提示する生徒の記述もいくつかあったことから、本教材における **that** の扱いや位置づけに関し、今後検討する必要があると考えられる。

【英語】人間が1日3食食べるのはなぜ？－英文を読んで考えよう－  
(pp. 180-181)

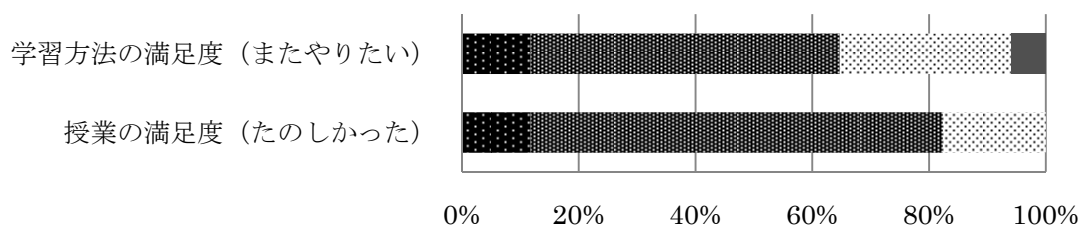
<教材の概要>

「人間が1日3食食べるのはなぜ？」という問いに対して、「グリコーゲンの役割」、「人間の体内時計」、「肥満」について書かれた3つの英文資料からわかったことを持ち寄り、答えを英作文する。

<実践校・学年>

埼玉県立春日部女子高校1年生

<生徒の満足度>



	授業の満足度 (たのしかった)	学習方法の満足度 (またやりたい)
■ 5	2	2
▨ 4	12	9
⋯ 3	3	5
■ 2	0	1
■ 1	0	0

<生徒のアンケートより：わかったこと>

- ・健康についてのトピックで話し合っ、三食食べるのは重要だと知っていましたが、なぜ重要なのかということがわかってよかったです。
- ・このようなことのほうが英語発言がしやすい。
- ・どーやって書くかわからなくても、話しているうちに考えがまとまってくる。文法はあっているかわからないけど。
- ・自分で思っていることを英語に表わす大変さ

<所感>

授業では、エキスパートとジグソーの両方で、「日本語で考えて話し合い、英語で表現する」というかたちで活動を行った。<文法に即して和文を英訳する>のではなく、<考えたことを伝える英文をつくる>活動としての英語表現を目指した授業と言える。生徒の感想からは、授業を通して自分の考えを自分たちなりの英語で表現するために考えをめぐらせていた様子うかがえる。

## 【英語】カレンダーはなぜ必要か？－英文を読んで考えよう－

(pp. 182-183)

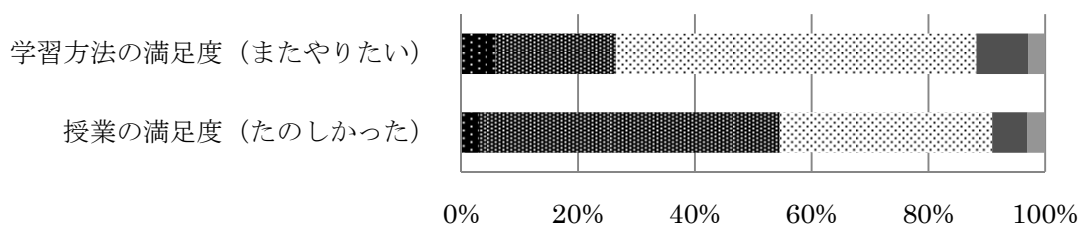
### <教材の概要>

「カレンダーはなぜ必要か？」という問いに対して、「ロビンソンクルーソー」(抜粋)、「逆回りの時計」、「宇宙の標準時」について書かれた3つの英文資料からわかったことを持ち寄り、答えを英作文する。

### <実践校・学年>

埼玉県立浦和高校2年生

### <生徒の満足度>



	授業の満足度 (たのしかった)	学習方法の満足度 (またやりたい)
■ 5	1	2
▨ 4	17	7
⊘ 3	12	21
■ 2	2	3
■ 1	1	1

### <授業の前後での問いに対する生徒の解答の変化>

問い What functions does a calendar have in our daily life?

前) A calendar have a function that let my life is going smoothly.

後) A calendar creates our standard of living. Without being the standard, we can't keep regular hours and feel relieved.

前) Calender let me know what

後) We can share the sences of time with foreign people, ancient people, and so on.

前) It tell me my birthday.

後) We need common date and it can tell us correct date. So, it's necessary for our daily life.

### <所感>

3つの英文資料の読解、統合を通じて、生徒は文明社会における「共通の基準」の必要性を見出し、各自の言葉で問いへの答えとしてそれを表現することができた。

## 【英語】健康を保つためには？－英文を読んで考えよう－

(pp. 184-185)

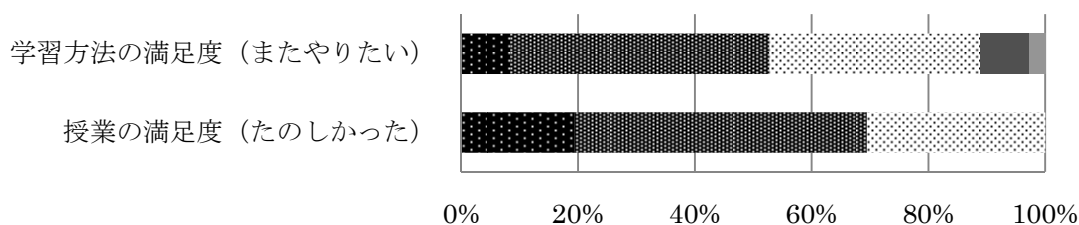
### <教材の概要>

「健康を保つためには何が効果的か？」という問いに対して、「各国の伝統的な栄養食」、「家族の健康法」、「睡眠と健康」について書かれた3つの英文資料からわかったことを持ち寄り、答えを英作文する。

### <実践校・学年>

埼玉県立浦和高校1年生

### <生徒の満足度>



	授業の満足度 (たのしかった)	学習方法の満足度 (またやりたい)
■ 5	7	3
▨ 4	18	16
⊘ 3	11	13
■ 2	0	3
■ 1	0	1

### <授業の前後での問いに対する生徒の解答の変化>

問い What do you think is effective to keep healthy?

前) I think exercise is good for it.

後) I think good sleep and good meal and exercise is effective for keeping healthy.

前) I think that health makes us happy.

後) I think sleeping is the best to keep healthy. We can't do anything without sleeping. And may be chicken soup is as good as sleeping.

### <所感>

前頁の「カレンダーはなぜ必要か」と同じフォーマットの授業だが、こちらはALTを交えたオーラル・コミュニケーションの授業として実施され、英語を使用したコミュニケーションにより力点が置かれた。「カレンダー」の授業と比べ、授業前後の記述の変化は比較的小さい一方、活動の活発さが生徒の満足の高さに反映したと考えられる。



## 【理科】 遺伝子の組み換えと染色体地図 (pp. 186-187)

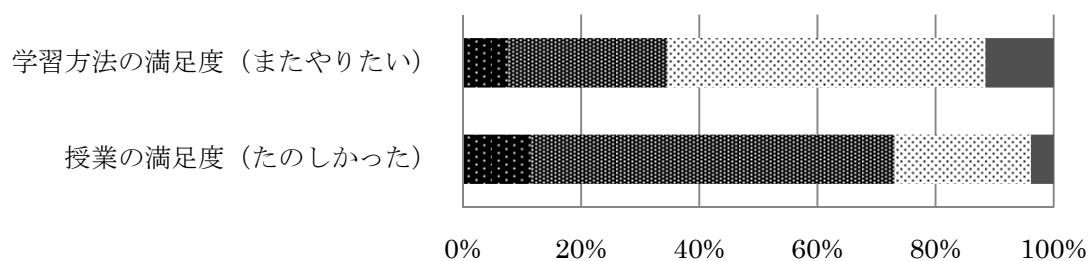
### <教材の概要>

染色体地図について、「染色体地図とは」、「遺伝子の組換えはどのように起こるか」、「連鎖と独立をどう見分けるか」の3つを組み合わせ、作成する。さらに、生まれてくる確率の低い表現型がある理由を説明する。

### <実践校・学年>

埼玉県立越ヶ谷高校 2年生

### <生徒の満足度>



	授業の満足度 (たのしかった)	学習方法の満足度 (またやりたい)
■ 5	3	2
■ 4	16	7
■ 3	6	14
■ 2	1	3
■ 1	0	0

### <生徒のアンケートより>

- ・染色体地図について…染色体にある遺伝子の相対的位置
- ・染色体上にある遺伝子座の位置の求め方がわかった。

### <所感>

生徒のアンケート結果より、染色体地図とその書き方について、多くの生徒が理解できたようである。生まれてくる確率の低い表現型という発展的な課題を考える過程で、授業のねらいである染色体地図について、生徒たちは理解を深めていた。ただし、発展的な課題については、消化不良感が残ったようである。授業での教材の組み方や授業展開における生徒支援の方法については、今後の検討が必要であろう。

## 【社会】中世末期ヨーロッパで権力を握ったのは？ (pp. 188-189)

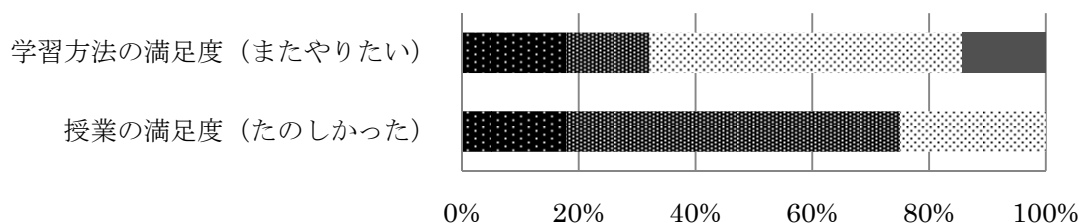
### <教材の概要>

中世末期のヨーロッパで権力関係はどのように変化したか。「教皇権の失墜」、「百年戦争による諸侯・騎士の没落」、「ペストの流行による諸侯・騎士の没落」の3つを組み合わせ、説明を作る。

### <実践校・学年>

埼玉県立越ヶ谷高校 2年生

### <生徒の満足度>



	授業の満足度 (たのしかった)	学習方法の満足度 (またやりたい)
■ 5	5	5
■ 4	16	4
⊘ 3	7	15
■ 2	0	4
■ 1	0	0

### <生徒のアンケートより>

- ・中世末期の権力争いは国王が権力を握った。
- ・中世末期は権力が教皇から国王へ変化したことがわかった。
- ・自分だけでは分からなかったところも、班のひとに聞いたら理解できた。一人でやるより、身につくと思った。

### <所感>

生徒のアンケート結果より、中世の権力争いにより国王が権力を握ることについては、話し合いを楽しみながら理解を深められたと考えられる。一方、今後知りたいこととして、「ジャンヌダルクは何をした？」や農民についての記述があった。生徒の考えをより深めるために、エキスパート資料の内容について、今後検討が必要であろう。

## 【美術】「鑑賞の心得」をつくろう (pp. 190-191)

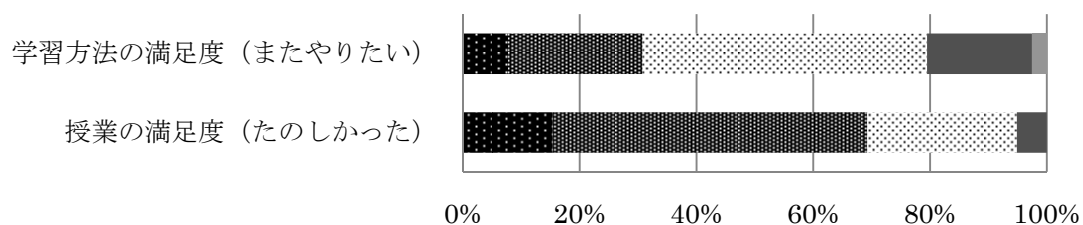
### <教材の概要>

「鑑賞の心得」について、「わかる」ということ、「リアリティー」について、「これって未完成？」という3つを組み合わせ、作成する。

### <実践校・学年>

埼玉県立大宮光陵高校 2年生

### <生徒の満足度>



	授業の満足度 (たのしかった)	学習方法の満足度 (またやりたい)
■ 5	6	3
▨ 4	21	9
⊗ 3	10	19
■ 2	2	7
■ 1	0	1

### <生徒のアンケートより>

- ・鑑賞することの大切さ。ただ「見る」のとはちがう。
- ・鑑賞というのは、第一に頭ではなく感覚で対象をとらえることが大切だと思いました。
- ・人の意見をきくことは鑑賞でも、話し合いでも大切ということ。自分の意見だけにとどまらず、他の人の意見をきいたりすると考えも、もっと深まる。

### <所感>

生徒のアンケート結果より、話し合いによって、鑑賞についても多様な考え方があることや、他者の意見を聴くことで視野が広がることを、生徒たちは概ね実感したようである。一方、学習方法の満足度で2や1につけた生徒も複数いた。アンケートの記述を見ると、説明のために資料をまとめることや、多様な意見をつなげることが難しかった生徒も数名いたようである。エキスパート資料の組み方に検討が必要であろう。

## 【美術】私たちは日本の美術を知っているか (pp. 192-194)

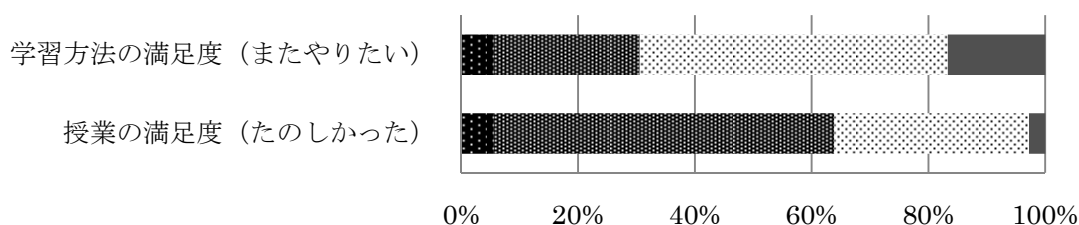
### <教材の概要>

「絵画」、「彫刻」、「陶器」のそれぞれについて日本と西洋の美術品を比較した3つの資料から読み取ったこと組み合わせて、日本の美術の特徴について説明を作る。

### <実践校・学年>

埼玉県立大宮光陵高校 1年生

### <生徒の満足度>



	授業の満足度 (たのしかった)	学習方法の満足度 (またやりたい)
■ 5	2	2
▒ 4	21	9
⦿ 3	12	19
■ 2	1	6
■ 1	0	0

### <生徒のアンケートより：日本の美術の特徴についての考えの変化>

**授業前：**日本画絵の具、素朴な絵、水墨画、びょうぶ きもの

**授業後：**味があって素朴。個性的。外側じゃなく内側 見たままじゃなく感じ方。一番相手に伝えたいことを大きさに描く。暗黙の了解を理解した上で、自然の素朴を用いて、日本独自の想像力を生かした風格 テイスト=味 不自然なもの 計算された美しさ

### <所感>

多くの生徒が、エキスパート活動で扱った文章や作品から各自が考えたことを結びつけて「日本の美術」について理解を深めたようである。ただしグループによっては、ジグソー活動において3人の説明をメモしあうだけに終わってしまい、議論が深まらない例もあった。説明を聞きとったあと、「それ以上に理解を深める」ことへ動機づけるために、ジグソー活動での課題の工夫が重要ではないかと考えられる。